

想定される機能

未来型図書館は、多面的な機能を有し、多様な体験を可能にする施設であるという前提のもと検討を進めてきました。

※考えられる機能・具体例は複数のコンセプトに位置付けられる場合もあります。



知の集積
図書館 など



地域の歴史・文化の
集積・編集
博物館・ミュージアム など



発信・表現
ホール・ギャラリー など



“個”の活動機能・居場所
学習スペース など



体験の共有・交流
多目的室・カフェ など



知・文化の共有
多文化交流スペース
貸し本棚 など



施設・地域連携
文化施設・学校 など



共創
市民協働プロジェクト など



創造
工作作業スペース
スタジオ など



子育て支援
屋内あそび場
預かりルーム など



活動支援
市民活動サポート
ビジネス支援 など

事業手法や施設・蔵書規模

事業手法

民間のノウハウを最大限に生かし、本プロジェクトに合致した官民連携による事業手法の可能性についても調査・検討を進めていきます。

施設・蔵書規模など

蔵書数の拡充を図っていく必要がありますが、それだけが未来型図書館が捉える情報ではないことに留意するほか、多様なメディアのデジタル化についてもあわせて検討していきます。

市民の声

未来型図書館がヒト・モノ・コトをつなぐ情報のハブとなり、みんなが共に成長しながら住民主体のまちづくりの拠点となることを期待しています。



田村 薫さん



(右から) 加藤 由子さん、向葵さん、向夏さん

本との出会いに限らず、人との出会いがあって、子供から大人までみんなの「わくわく」が溢れる場所になって欲しいです。

“共に創る”

未来型図書館の基本構想がまとまりました。未来型図書館への階段の第一段目です。

基本構想策定委員会のみなさん、市民ワークショップの「つながるミーティング」に参加していただいたたくさんの小松市民のみなさん、そして宮橋市長や行政のみなさんの思いと対話が言葉になりました。

ハコモノとしての施設ではなく、小松で

知り、暮らす「わたしたち」の姿が真摯に語り合わせ、分かち合われたことが何よりも素晴らしかったと思います。

小松市の未来型図書館を市民と共に創るプロセスは、全国でも先進的なプロセスだと思います。これから基本計画、設計・建築、運営と続く「共に創る」階段を昇っていきましょう。



未来型図書館基本構想策定委員会 座長 平賀 研也 さん

市民と共に創る 未来型図書館

基本構想が完成しました

昨年度、専門家や学識経験者などで構成する基本構想策定委員会を開催。未来型図書館のビジョンや基本方針の具体化、立地候補エリアの意見集約に向けて議論を進めてきました。

全5回の市民ワークショップに延べ250人以上が参加し、まち歩きや対話を通じて未来型図書館での体験、人やまちとのつながりなどについて考え、共創の機運を醸成してきました。こうして共に創り上げてきた基本構想を紹介します。

問い合わせ 未来型図書館づくり推進チーム ☎24・8042



立地場所が「芦城公園周辺」に決定しました

これまでの議論を通して、芦城公園周辺が最適な立地エリアとして決定しました。

今年度は国の先導的官民連携支援事業にも採択され、周辺の公共施設の集約・再編や機能の見直し、ビジョン・コンセプトを実現する機能、民間活力を生かした事業手法の導入など、公共施設マネジメント事業と一体となった総合プロジェクトとして検討を進めます。



基本構想の概要

ビジョン

こまつを編む。
こまつを巡らす。



—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—

こまつを編む。

まちの中にある多様な資源を結び付け、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で小松というまちを編み上げていく様を意味します。

こまつを巡らす。

人・文化や歴史・情報・活動・経済など、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的に創っていく様を意味します。

3つのコンセプト

■人の営みや情報の核となる拠点(こまつベース)

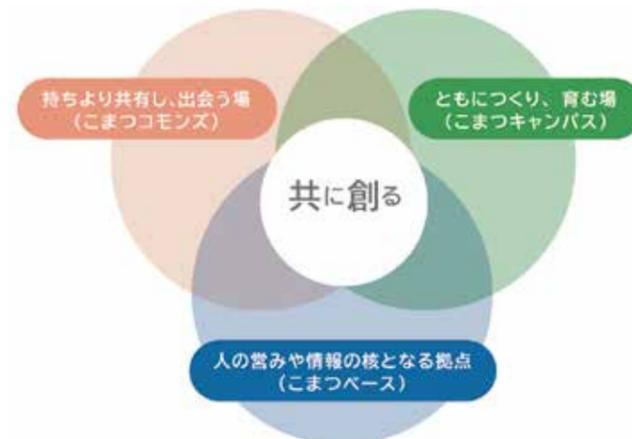
地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)の個々の特徴を生かしながら結び付け、編集して生かしていくまちの核としての役割を持ちます。

■持ちより共有し、出会う場(こまつコモンズ)

誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、やりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

■ともにづくり、育む場(こまつキャンパス)

ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。





市民ワークショップ[つながるミーティング]

昨年度、市民ワークショップ「未来型図書館つながるミーティング」を全5回開催しました。

対話をはじめ、まち歩きや地域資源マップづくり、施設で起こると良い体験ストーリーを描きながら、未来型図書館の可能性について検討しました。その対話と活動の記録の本「わくわくしよっさ! ~未来型図書館がやってくる~」が完成し、今後はこれを活用しながら、さらに未来型図書館づくりの輪を広げていきます。



諸江康生さん、宮西ひかりさん

私たち学生も参加しました! みんなの思いが詰まった「本」をぜひご覧ください!

気付きの多いワークショップでした。対話を通じて共に知り、創るというプロセスが大切だと感じています。



木田 智滋さん

市民ワークショップでは新たな出会いや発見がありました。これからもみなさんと一緒に未来型図書館づくりに携わっていきたいです。



若山 弘子さん

人材育成講座

図書館運営を支える人材育成にも取り組んでいます。第2期の募集は7月ごろを予定しています。

図書館エディター養成講座

小松市の「ヒト・モノ・コト」に目を向け、地域コンテンツの編集・発信方法を学び、図書館の企画運営を支える「図書館エディター」養成講座を開催。

第1期では22人に認定証が贈られ、今後はメディアプラットフォーム「note」で活動内容などを発信していきます。



自身の思いを表現することの面白さを実感しました。図書館エディターの輪を広げ、このまちを更に盛り上げていきたいです。



東谷 俊之さん

子ども司書養成講座

図書館や本のことを学び、自分の言葉で読書の楽しさや面白さを伝える「子ども司書」養成講座を開催。

昨年度には、講座を修了した受講生が「こまつ子ども司書クラブ」を結成し、クラブの活動目標を定め、毎月図書館などで様々な活動を展開しています。

POPづくりが楽しいです!これからは選書などにも挑戦したいです。



伊藤 梨奈さん

みんなの仲がよく、とても楽しく活動しています!



辻 観誠さん

今後について

今年度は具体の立地場所や公共施設の集約・再編、機能の見直し、官民連携による事業手法などとあわせて、事業スケジュールを検討し、未来型図書館の具体化を図っていきます。その後、来年度以降に基本計画や基本設計などに取り組んでいきます。

また、市民ワークショップを発展させた産学官民による対話と活動のプラットフォーム「こまつリビングラボ(仮称)」を立ち上げ、市民と共に創る未来型図書館をさらに推進していきます。



▲「こまつリビングラボ(仮称)」の体制